

あってよかった、
出会えてよかった、
と思われる存在でありたい。

どんなに時代が変わろうとも、どんなに時が経とうとも、
お客さま視点に立ったサービスを追求するとともに、
お客さまの人生に寄り添い、
必要とされる価値と、豊かな暮らしを提供します。

ミニディスクロージャー誌 2026
第215期 営業のご報告
2025年4月1日▶2026年3月31日

スルガ銀行



ごあいさつ

平素よりスルガ銀行グループをお引き立ていただき、誠にありがとうございます。皆さまに当社グループへのご理解を一層深めていただくため、「ミニディスクロージャー誌2026 第215期 営業のご報告」をお届けいたします。

2026年3月期までの3年間、当社は「スルガ再成長軌道の本格始動」をテーマに掲げ、一歩ずつ着実に歩みを進めてまいりました。その結果、単体の経常利益は2023年3月期の112億円に対し約3倍に拡大し、当期純利益は4期連続の増益を達成するなど、確かな成果を収めることができました。こうした堅調な業績を背景に、2026年3月期の年間配当金につきましては、前年度から31円増配の1株当たり60円(過去最高水準)といたしました。これもひとえに皆さまの温かいご支援の賜物であり、厚く御礼申し上げます。

この成果を礎に、本年度より、「違いの創造による質の向上」をテーマに、新たな中期経営計画をスタートいたしました。この計画の策定にあたり、初めて「長期的にありたい姿」を定めました。キーワードは、「Waku Waku Only One」です。社員一人ひとりが「違いの創造」に本気で取り組み、お客さまのワクワクにつながり、それを誇らしく社員が語り合う。そんな最もワクワクする銀行を私たちは目指してまいります。

この「ありたい姿」を実現するための戦略として、当社の強みである多様な事業領域、いわゆる「ハケ岳モデル」をさらに進化させてまいります。変化の激しい時代において、これまでの強みを「軸足」としながらも、目線や角度を柔軟に変えて新たな価値を創り出す「Pivot(転軸)」に取り組んでまいります。例えば、地元(静岡・神奈川)においては、個人のお客さまに加え、地域の法人・事業者さまやフリーランスの皆さまへの総合提案を進めてまいります。また、最新のAI技術を積極的に活用することで、今まで以上に寄りそったお客さま対応や、新しいサービスの創造を進めてまいります。

地域貢献においては、地元へ利益を還元し、持続可能な地域経済の発展に貢献することを私たちの重要なミッションとしております。当社独自の取組みとして、「自転車」を軸としたサイクルツーリズムの推進や多彩なイベントを通じ、今後3年間で10億円以上の経済波及効果を創出することを目指します。地域の隠れた魅力を再発見し、街に賑わいをもたらすことで、地域の活性化につなげてまいります。

当社はこれからも、お客さまと地域社会に寄りそい、明るい未来を共に創りあげながら、皆さまから「あってよかった、出会えてよかった」と思われる存在を目指してまいります。

今後とも変わらぬご支援とご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2026年6月

社長
加藤 広亮
Kosuke Kato



営業の概況 当期の業績(単体)につきましては、次のとおりです。

POINT

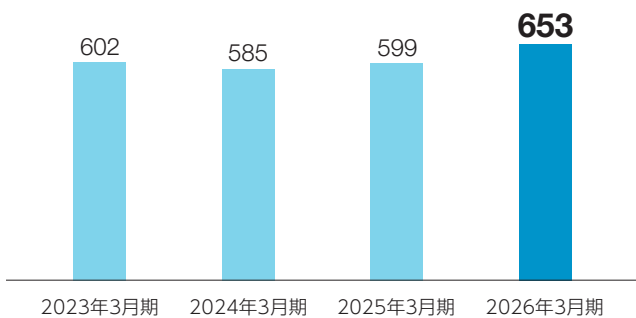
2026年3月期は、経常利益及び当期純利益が4期連続で増益を達成し、堅調な業績推移となりました。トップライン指標である「コア業務粗利益」は、本業であるローンビジネスが順調に推移したこと等により、前期比54億円増加の653億円となりました。

「経常利益」は、人的資本投資を拡充した一方、物件費のコスト構造改革が寄与し経費が減少したこと、債権品質向上への取組みが一巡し実質与信費用も減少したこと等により、前期比88億円増加の345億円となりました。

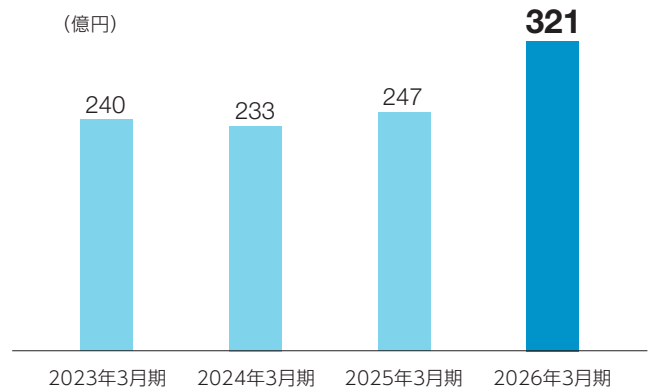
「当期純利益」は、前期比142億円増加の340億円となりました。

2027年3月期も堅調な業績が見込まれることから、1株当たり年間配当金予想を60円に据え置く計画です。

● コア業務粗利益^{※1} (投資信託解約損益を除く) (億円)

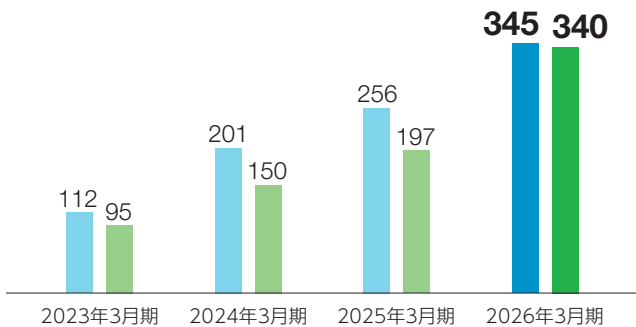


● コア業務純益^{※2} (投資信託解約損益を除く) (億円)



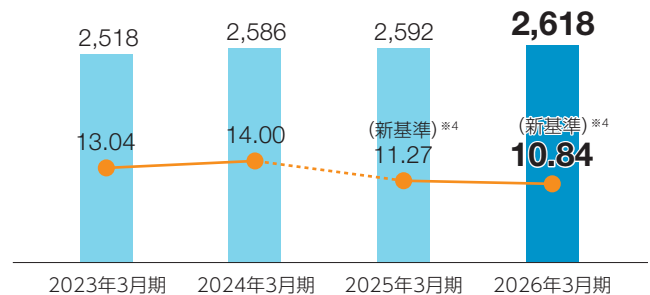
● 経常利益／当期純利益

(億円) ■ 経常利益 ■ 当期純利益



● 自己資本^{※3}／自己資本比率 (国内基準)

■ 自己資本(億円) —●— 自己資本比率(%)



※1: コア業務粗利益は、業務粗利益から国債等債券損益の影響を除いたもので、債券売買等の一時的な要因を除いた銀行の本業における粗利益を表しています。

業務粗利益 = 資金利益 + 役員取引等利益 + その他業務利益

コア業務粗利益(投資信託解約損益を除く) = 業務粗利益(投資信託解約損益を除く) - 国債等債券損益

※2: コア業務純益は、コア業務粗利益から経費を除いたもので、銀行の本業における収益力を表しています。

コア業務純益(投資信託解約損益を除く) = コア業務粗利益(投資信託解約損益を除く) - 経費

※3: 自己資本は、(コア資本に係る基礎項目)から(コア資本に係る調整項目)を控除して算出しております。当社の(コア資本に係る基礎項目)は資本金、資本剰余金、利益剰余金等と一般貸倒引当金により構成しております。

自己資本比率 = 自己資本額(コア資本に係る基礎項目 - コア資本に係る調整項目) / リスク・アセット等 × 100

※4: 2025年3月期よりパーゼルⅢ最終化適用(経過措置は非適用)

株主還元施策 株主還元の基本方針に基づき、株主還元の充実に努めております。

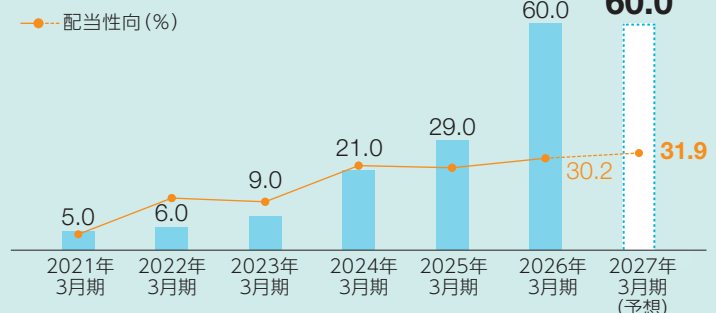
株主還元の基本方針

資本の健全性や成長のための投資との最適バランスを検討したうえで、株主還元の充実に努める方針

配当方針

配当性向30%程度を目安とした安定配当を基本方針とする

1株当たり年間配当金推移(円)



新中期経営計画(2026~2028年度)について

当社は、2026年度から2028年度までの新たな中期経営計画を策定いたしました。本計画では、私たちの原点である企業理念を踏まえ、初めて「長期的にありたい姿」を定めています。当社のDNAである“違いの創造”をさらに進化させ、「最もワクワクする銀行」を目指してまいります。

長期的に
ありたい姿

社員一人ひとりが「違いの創造」に本気で取り組み、
お客様のワクワクにつなげ、それを誇らしく社員が語り合う
そんな、最もワクワクする銀行を私たちは目指す

Waku Waku Only One

新中期経営計画の経営戦略

1

ハケ岳モデルの深化 ~Pivotで“違い”を磨く

自らの強みを軸足(Pivot foot)とし、目線や角度を変えることで、既存の4プロフィットセンター(コミュニティバンク、首都圏・広域バンク、ダイレクトバンク、市場ファイナンス本部)における「違い」をさらに磨きあげます。

2

アライアンス戦略による持続的成長 ~4PCから5PCへ

既存の4プロフィットセンターに加え、「アライアンス事業」を第5の収益成長領域と位置づけます。株式会社クレディセゾンとの協業は「第2ステージ」へと深化させ、預金調達を含む新しい金融のカチチを追求します。

3

AIとの共創 ~全社員でのAX推進

AIを単なる効率化の道具ではなく、新たな「違い」を共創するパートナーとして位置づけ、全社員でAX(AIトランスフォーメーション)を推進し、業務効率化30%(約50万時間相当)を実現します。

2028年度計画 メインKPI

● 経常利益:525億円 ● ROE(連結):11.0%以上 ● 自己資本比率:実質10%程度

新中期経営計画の詳細についてはこちらをご覧ください。➡



地域活性化に向けた取組み

サイクリングプロジェクト

当社は、自転車を軸に、多様なパートナーとの協働を通じて、地域に賑わいを創り、持続可能な地域経済の発展に寄与することをミッションとしております。新中期経営計画では、今後3年間で、地元経済への波及効果を10億円以上創出するという目標を掲げ、積極的な取組みを進めてまいります。

活動
内容

2025年度は「ジャパン・マウンテンバイク・カップ」や「ツアー・オブ・ジャパン」の富士山ステージ、相模原ステージに協賛し、来場者の増加や賑わい創出に貢献しました。また、神奈川県・横須賀市や東急ホテルズ&リゾーツ株式会社との共同イベントに加え、産学連携の取組みとして、伊豆総合高校土肥分校の生徒と企画したサイクリングコースを巡るイベントや麻布大学とのサイクリングイベントも実施し、SNSなどを通じて地域の魅力を広く発信しました。今後も地域に密着し、多彩なイベントを通じたサイクルツーリズムの推進や、自転車の機動性を活かしたきめ細やかな観光情報の発信を通じて、交流人口の拡大と地域活性化に貢献していきます。

Webサイトのご案内

スルガ銀行サイクリングプロジェクト

URL <https://www.surugabank.co.jp/cycling/>



自転車だからこそ発見できる地域の魅力

自治体・地元企業との協働による自転車での街めぐり企画、当社のサイクルステーションを使用したライドイベント等を紹介しております。



井伊部長の温泉グルメ探訪

URL <https://onsen.surugabank.co.jp>



温泉を中心に地元のおすすめスポットをご紹介します

地域貢献活動の一環として、静岡県・神奈川県(主に伊豆や箱根)の地元エリアの温泉施設や飲食店、観光スポットを紹介しております。今後も続々と新しいレポートを追加してまいります。



株式についてのご案内

決算日 毎年3月31日をもって決算を行います。
定時株主総会 毎年6月に開催いたします。
基準日 定時株主総会については、毎年3月31日といたします。その他必要がある場合は、あらかじめ公告いたします。

剰余金配当基準日 3月31日(期末配当) 9月30日(中間配当)
その他、当社が定めた基準日

公告の方法 電子公告といたします。
ただし、事故その他やむを得ない事由によって、電子公告による公告ができない場合には、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社

事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵送物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) ☎ 0120-782-031
受付時間 9:00~17:00(土日休日を除く)
インターネットホームページURL <https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>
よくあるご質問(FAQ) https://faq-agency.smtb.jp/?site_domain=personal

【株式に関する住所変更等のお手続きについてのご照会】
証券会社の口座をご利用の株主さまは、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。
証券会社の口座をご利用でない株主さまは、上記電話照会先までご連絡ください。なお、お手続き方法やよくあるご質問は、上記「よくあるご質問(FAQ)」サイトでご確認いただけます。

詳しい内容、お問い合わせは

アクセスセンター	☎ 0120-50-8689 月~金曜日(祝日を除く) 9:00~17:00	ホームページ	https://www.surugabank.co.jp
----------	--	--------	---


緊急連絡先のご案内

キャッシュカード・通帳・印鑑を紛失された場合は、直ちにお取引店又は以下の緊急サポートセンターへご連絡ください。

スルガ銀行緊急サポートセンター TEL 055-987-8182 24時間365日(有人受付) 同時に最寄りの警察にもお届けください。

当社の概要 (2026年3月31日現在)

設立	1895年(明治28年)10月19日	資本金	30,043百万円
本店	静岡県沼津市通横町23番地	預金	32,037億円
店舗数	国内 98	貸出金	23,915億円
	静岡県内 45 神奈川県内 34 東京都内 3 北海道内 1 埼玉県内 1		
	千葉県内 1 愛知県内 1 大阪府内 1 福岡県内 1		
	インターネット支店 10		

営業店舗網は  [こちら▶▶▶](#)

主なインターネット支店

ANA支店

銀行取引でマイルが貯まるマイレージ&バンキングスタイル Visaデビット・マイレージ・キャッシュカードの機能を一体化。定期預金や給与振込などでマイルが貯まります。

Dバンク支店

当社独自の還元特典を提供する「スマホ座」が好評 2026年8月1日より、日々の生活シーン全般をカバーする新たな還元モデルへと特典プログラムを進化させます。来店不要で、全国対応の住宅ローンも取扱っています。

ドリームダイレクト支店

14人もの億万長者誕生の実績！ 「ジャンボ宝くじ付き定期預金」を中心に、年金受取サービスなどの商品・サービスをラインナップ。利用金額に応じて宝くじを進呈いたします。

ATMネットワークのご案内

入金も出金もできるATM



出金ができるATM



全国の提携金融機関 ATM・CD

スルガ銀行

〒410-8689 静岡県沼津市通横町23番地
TEL 055-962-0080
<https://www.surugabank.co.jp>

